

禅の友

2018
11
—Zen no Tomo—

特集 葬儀

禅めぐり 愛媛県新居浜市「瑞應寺」



禅の友 十一月号（通巻八三一号）

昭和二十五年三月十四日第三種郵便物承認
平成三十一年十一月一日発行（毎月一回一日発行）
定価六〇円（税込）
発行人 曹洞宗宗務総長 〒105-8544 東京都港区芝二丁目五番二号 曹洞宗宗務厅

KOMATOMAだからかなえられる夢がある 仏教専修科

曹洞宗の僧侶を目指す生徒を対象に指導します

全国から同じ目標を持つ仲間が集まり、「週1回の課外活動と実習」「宗制による特殊安居」その他研修活動等を行っています。

卒業後は、優先入学制度を利用して駒澤大学仏教学部に進学する生徒が多いことも特徴です。

- ・講義と坐禅実習からなる宗教科目
- ・伝統的な日々の宗教行事



「仏教」の教えと 「禅」の精神に基づく教育

建学の精神

ぎょう がく いち よう
行 学 一 如

～「生きる力」を支える「学び」を目指して～

行学目標

しん せい けい あい
信 誠 敬 愛

自己を磨き、人を思いやる心を育てる

『行学一如』の精神のもと、生徒一人ひとりの命を輝かせる教育を目指しています。



「禅」の一文字を大きくあしらった坐禅堂（2017年10月完成）



駒澤大学附属苫小牧高等学校

〒053-8541 北海道苫小牧市美園町1丁目9番3号
TEL.0144-32-6291
FAX.0144-32-6521(事務室)・0144-32-6964(職員室)

www.komazawa-uth.ed.jp



駒 苫 検 索

弟子と成します。出家の作法と同じく、頭髪を剃つて僧形を成し（剃髪）、十六の戒を受け（授戒）、仏弟子であることとを証する「血脉」を授けます。そこにはお釈迦さまから歴代の祖師方に伝えられ

埋葬の遺跡からは、花が手向けられていたことがわかつています。古代から死を悼む心、故人を追慕する心が示されていたことが伝わってきます。

日本で葬儀が広く行われるようになつたのは、鎌倉時代から室町時代といわれます。そこでは市井で活躍した僧侶たち、とりわけ禪宗僧侶による供養が、人々の「亡き人を弔いたい」という思いに応えるものとして、大きな役割を果たしていつたと考えられています。禪宗が全国隅々に広まつていった背景には、人々の求めに応じ葬儀を勤めていったことがあるといわれます。

◆曹洞宗の葬儀

曹洞宗の葬儀作法では、まず故人を仏

た仏の教えが、導師さまから戒を受けた故人へと脈々とつながつてきていることが示されています。お戒名は、仏弟子となつた証として、新たな名前として受けられたものといえます。そして、これ以後「み仏の子」として歩むことを願うのです。続いて経文や諸仏の尊名をお唱えし、その功德を以て故人の赴く仏の世界を美しく飾り、歩みの助けとなるよう念じます。最後には、故人を仏の世界へと導くために、導師が朗々と「引導法語」を唱えます。法語では悟りの境地を示すとともに、故人の生前を賛嘆し、仏の世界で安らかならんことが唱えられます。

◆葬儀のはたらき

故人を弔い、故人を仏の世界へと導くための葬儀ですが、遺される家族や近親者にとっても、葬儀を執り行うことは、大切なことといわれます。大切な家族を失つた遺族にとっては、大きな悲しみと共に、喪失感やこの現実を受け入れられない



突然の訃報に接し、皆さんも親戚や知人、近隣の方の葬儀に参列する機会があることでしょう。葬儀は、亡くなつた方との別れの時であり、仏の世界へとお送りする儀式であります。親しい人の別れは、できれば経験したくない出来事ですが、人生の中で避けられないことであります。葬儀が営まってきた歴史をたどり、そこに込められた思いを考えてみたいと思います。

◆葬儀の歴史

古今東西、宗教の違いに拘わりなく、様々な形で葬儀が営まられてきました。古くネアンデルタール人

特集 曹洞宗の
供養

葬儀

平子 泰弘

(群馬県桂昌寺住職)

そうちぎ

思いなどを抱えます。そうした時に臨終から通夜・葬儀・火葬と一連の儀式を皆で営む行程を通して、次第に心が落ち着き、死を受け入れていくことができるのだといいます。

また、死は家族や親族だけの問題ではなく、生前に関わりのあつた縁ある人々にとつても、大きな出来事といえます。そうした縁ある様々な人にあつても、最期の別れをし、故人のあの世での安寧を祈る場として葬儀が欠かせないのであります。

また、古い時代には死や靈が計り知れないもの、恐ろしいものというとらえ方がありました。死による影響があるのではないかと思う心を落ち着かせるためにも、葬儀をきちんと営み、供養することで、故人の靈を鎮めるだけでなく、生者的心も落ち着かせるというはたらきがありました。

さらに、葬儀には死に対する教育的な役割もあります。かつては家庭において死を看取り、葬儀を営むことで、幼い子どもたちも死を身近なもの

として体験していきました。そこでは生あるものは必ず死を迎えるという真理や、周囲の悲しみを肌身で感じ、そこからかけがえのない命の大切さを学びます。そして、故人のために祈り、葬儀をすることの意味を、経験を通して身につけていくといいます。

このように葬儀には宗教的な意味や、ご遺体を処置するだけでなく、様々なはたらきがあることがわかります。

◆変わる葬儀・変えてはいけないはたらき

故人を供養し、生者の心痛を和らげてくれる葬儀では、民俗と呼ばれる様々な儀式や風習も併せて各地域で行われてきました。湯灌や釘打ち、葬列、お念仏など、都市部を中心に消えつつある民俗は、それぞれに亡き人を想い、泣く泣く別れをしていく行程として、葬儀に必要な要素といえました。

以前の葬儀は、自宅もしくは寺院や集会所で行

われていたと思いますが、近年は葬儀社の会館や斎場などで行われることが多くなってきています。このことにより、単に場所が変わっただけではなく、多くの変化を生み出しています。それま

では親戚や近隣住民が中心となり、それぞれが葬儀のなかで役割を果たしてきましたが、葬儀社がこれに取って代わり、すべてをお膳立てしてくれます。そして、これまで地域で守り伝えられてきた葬儀の風習などは、会場等の都合で行われなくなり、次第にそうした風習の存在すらも忘れられていきます。もちろん葬儀の歴史を紐解くと、時代ごとの変化がみられます。

社会の状況に応じた方法に変化していくのでしょうかが、故人の死を悼むという葬儀が持つはたらきを具えているか、考えていきたいものです。

近年には、儀式を行わない「直葬」や、近親者のみで行う「家族葬」も頻繁に耳



画 倉橋達治

にします。葬儀が故人を供養し、お別れをする儀礼とすれば、そのはたらきが本当に全うされるのか、危惧の念を感じます。

*

葬儀は、亡くなつた方を仮の世界へとお送りする儀式であり、生者はその儀式を通して、故人との別れを受け入れると共に、親しい人を喪つた心の痛みを癒やしていくものと考えます。訃報に接した時には、故人を思い手を合わせ祈り、心ゆくまでお別れをしていただきたいと思います。

雲の如く 臨床宗教教師 つてどんな人？ 水の如し

日本臨床宗教師会会長
上智大学大学院実践宗教研究科委員長・
同グリーフケア研究所所長

島園 進

東日本大震災では多くの方々が亡くなり、また生活の支えとなるものを失った。重い苦難のなかから、仙台では超宗教・超宗派の「心の相談室」

が立ち上がり、やがて臨床宗教師の養成が始まつた。支援活動を進めるなかから、平常時にも通じる、「ともに苦難を受け止める力」を養つていくための取り組みも進められたのだ。

災害時には宗教や宗派の教えをそれぞれに説くよりも、苦難を抱える人々とともに向き合つてその力になることが求められる。被災者もその世話をする行政関係者も特定宗教団体による支援活動というと対応に困る。だが、超宗教・超宗派の機

関の保証があると受け入れやすくなる。

この動きは二〇一一年三月十一日以後に、まったく新たに始まつたものではない。仙台地域でふだんから医療や死の看取りの場に宗教者が加わることを摸索してきた医師がいた。**岡部 健**医師である。一九五〇年生まれの岡部医師は九七年に宮城県立がんセンターを辞め、名取市で在宅専門のクリニックを開設し、主に死の看取りの医療に携わることになった。死の看取りの医療を進めるうちに、宗教者の関与が不可欠と考えるようになり、チャップレン（現場で祈る宗教者）を雇つた。

ところが、二〇一〇年になって、自ら余命が長くないがんに罹患（りかん）していることを知つた。そして、死を覚悟しながら震災の被災者のケアにあたるなかで、いよいよ宗教者の役割が大きいとの認識を深めた。そして、日本の実情に即したチャップレンの呼称として「臨床宗教師」が適当と考えるようになった。これまで在宅の死の看取りに関わるな

かで、宗教者だけではなく、宗教学や哲学や社会学の研究者とも交流を進め苦難を受け止めるケアのあり方について理解を深めていた。そして、いよいよ臨床宗教師の養成を始めようという気運が高まつていた。

震災後、すぐに東北大学に実践宗教学の講座ができ、二〇一二年から臨床宗教師の養成講座が始まつた。その後、岡部医師は亡くなつたが、全国

の宗教系の八大学で臨床宗教師の養成が行われるようになつた。一六年には日本臨床宗教師会が設立され、翌年からは臨床宗教師の資格認定も始められた。病院で臨床宗教師を雇用する例も増えてきている。

臨床宗教師の役割は死が近づいた人を支えることだけではない。死別の悲嘆にくれている遺族のケア、孤立に苦しむ人々のケア等々、様々に需要がある。囚人の悩みに応じる教誨師や出獄者の世話をする保護司など、実はこれまで取り組まれてきた。臨床宗教師の活動は多くの先人たちによって取り組られてきたのだ。しかし、ふつうの人々が宗教者に苦難や悲嘆のなかでの導きや安らぎを求めるのは自然だ。臨床宗教師に接しているうちに、生きる力の源にふれたように感じる人。生きることがつらかつたが、臨床宗教師に会つて安らぎが見えてきた人。そんな人たちが増えれば宗教の力が再認識されるだろう。

◆少年院に臨床宗教師任用◆

今年九月一日付で、盛岡少年院（岩手県）に、臨床宗教師が一人任用された。任用されたのは、曹洞宗僧侶である氏家栄宏師（宮城県城皇寺住職）。

一年ごとの非常勤講師で、その活動の目的は、殺人などの重い罪を犯した入所者に対する月二回程度の個別面談を中心に、罪と向き合い内省を深める手助けをするというものの。

これまで医療・福祉施設等が主な活動の場だった臨床宗教師が、矯正施設で勤務する初めてのケースとして注目されている。入所者の更生に向けて寄り添うことができる宗教者の活動が期待される。

つれ 岁時記

青山 俊董

(愛知専門尼僧堂堂長)

「火」という言葉が事実なら、「火」といったとたんに口が火傷し、「火」と書いたとたんに紙が燃え出すはずだ。いくら「火」といっても、書いても、火傷もしなければ、燃えもしない」。

これはある日の内山興正老師のお話の一節である。禅家では十一月一日（陰曆十月一日）開炉といって炉に火を入れる。内山老師のこのお言葉は、大智禪師の「開炉」という偈（七言絶句の漢詩）によることを、後で知った。

十月正当初一日

霜風葉を吹いて空階に満つ
今朝喚んで開炉の節と作す

火と道つて何ぞ口を焼き來たる

「火」という存在と働きがあり、それを指示する「火」という言葉や、働きを説明する理論が生まれる。

「すべての理論は灰色で、緑なのは、生の黄金の樹だけだ」

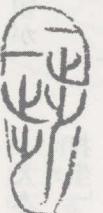
（ゲーテ『ファウスト』）

いくら「火」といっても、あるいは火の働きを説明しても、部屋はあたたまらなければお粥も煮えやしない。文字や理論の学びも大切だが、それは今ここで間違いのない実践をするための、いわば楽譜。大切なことは今この一步一歩の上に生演奏することであることを忘れまい。



今月の
おはなし

灰ならし



北海道永全寺住職

斎藤 隆明



お寺で大きな法要がある時は、数日前にお坊さんが集まり、準備をすることがあります。

その時、私が一番苦手としていたのが、灰ならしという作業です。

お寺には香炉が沢山あり、中に灰が入っています。

日頃から何度も線香を立てていると、小さな燃え残りが中にたまっていくので、灰をすくい新聞紙の上でふるいにかけ、再び香炉に戻します。

その後、専用の道具を使い香炉を回しながら、表面をきれいにならして終了です。それ

が簡単なようで難しいのです。

一見きれいになつたようでも、斜めにして中を点検すると、真上からでは分からず、香炉の端の灰が乱れています。

そのままで問題ないレベルでも、自分自身

が少しでも気になると、全体をまた割りばしでかき混ぜて、一からやり直します。それを繰り返していると、いつまでたつても終わりません。

自分のお寺だとんびりできるのですが、他のお寺では、そのお寺や集まっているお坊さんの都合も考えて、限られた時間の中でやりきらなければなりません。

器用な方は、短時間でうまくできるのですが、私は子どものころから不器用で、要領が悪いのに、その係によく当たりました。

そこで何とかみんなに迷惑がかからないよ

う、一人だけ数時間前に到着して、早めにはじめたり、帰るふりをしてこつそり一人残つてみたり、どうしても納得がいかない時は、自宅に持ち帰り、次の日に届けたりしていました。

そんなある日、先輩が香炉の中を見て「完璧だ」と褒めてくれた時は、心の中でガツツポーズをつくりました。

しかし、人に褒められたいと思っているうちは、まだ執着を離れることができおらず、今思うと恥ずかしい気持ちになります。

最近は妥協することも覚えましたが、灰ならしは、ただきれいにするためだけの行為ではないと感じるようになりました。

大本山永平寺を開かれた道元禅師は「只管打坐」。「ただひたすらに坐禅修行しなさい」と示されました。

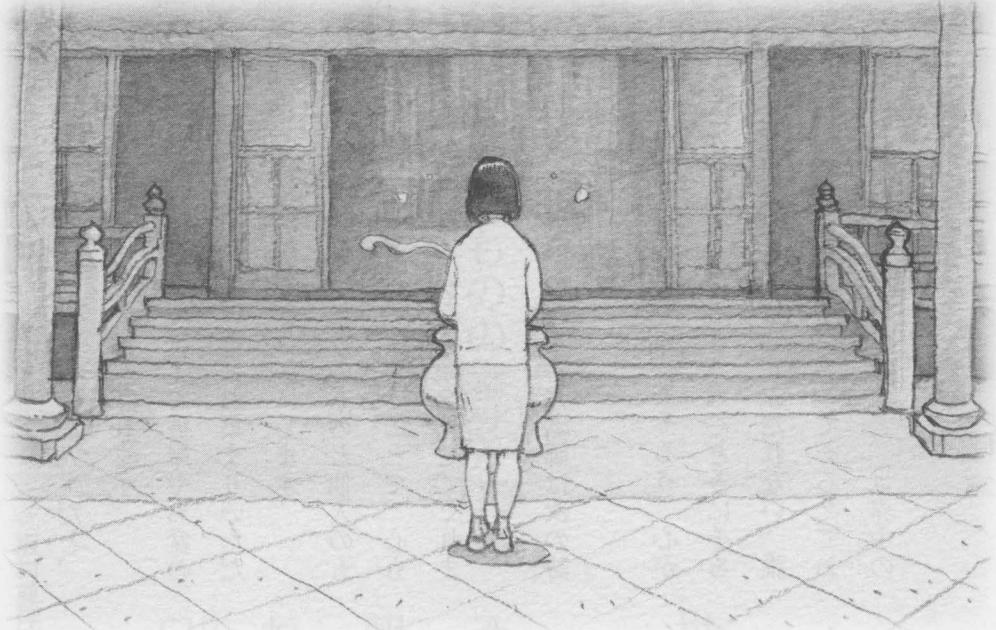
結果と共にどこかで見返りを求めていた私は、この「只管」の大切さに気づいていなかつたのです。

大本山總持寺を開かれた瑩山禪師は「喫茶喫飯」。「お茶をいただく時はありがたくお茶をいただき、ご飯をいただく時はありがたくご飯をいただきます」と示されました。

日常生活全てが、かけがえのない「今」という命であるがゆえに、いかなる時も、今なすべきことに徹して生きる禅の教えです。

私は本堂の大香炉の灰ならしをする時、思わず手が止まることがあります。それは私以外の立てた線香を見つけ「母が家族の幸せを祈りながら立てたものがこんなにあるのか」と、それぞれの線香に込められた願いや祈りに思いを馳せるからです。

そして色々迷い、悩みながらも「今」をた



だひたすらに生き抜いているのが人生だと、あらためて「はつ」と気付かされます。

また、お寺の納骨堂では、お彼岸やお盆の前になると、ご奉仕の方々にお集まりいただ

き、全員の香炉の灰をきれいにします。

参加された方々は、自分のものと他人のものと分け隔てなくきれいにすることで、心もすっきりして、爽やかな笑顔を見せてくれます。

今は亡き、長野県の藤本幸邦老師は次の詩を遺されました。

「はきものをそろえると心もそろう。心がそろうとはきものもそろう。ぬぐときにそろえておくと、はくときに心がみだれない。誰かがみだしておいたら、だまつてそろえておいてあげよう。そうすればきっと、世界中の人も心もそろうでしょう」

これは、はきものだけでなく、灰ならしにも通じることばです。次に使う人が喜ぶだけでなく、自分自身の心が調う修行でもあるのです。

さらにそこから、他人の喜びが自らの喜び、他人の幸せが自らの幸せとなる、思いやりの生き方に繋がっていきます。

皆さんもお彼岸やお盆、法事等、大切なご

命日の前には、香炉の灰をふるい（茶漉しでも可）にかけたり、線香を直接割りばしで取つて「ただひたすらに」灰ならしをしてみてください。

おのずと心も調い、安らぎの心を得られるこことでしょう。

合掌

心のうた

仏教のこころで詩を楽しむ

仏陀世尊を

いちがん
一言でいえば

生きとし生けるものの幸せを

誰より強く念じた人

ふんぞうえ
糞雜衣を身にまとい

いっぽつ
一鉢の食に甘んじ

朝念暮念

わたしは仰ぐ

じつげつ
日月のごとく

世を終えた人

それゆえに

生きとし生けるものの幸せを

誰より強く念じた人

いっぽつ
一鉢の食に甘んじ

三十五 「縁」について（2）

駒澤大学名誉教授

佐々木 宏幹

先

月号において「縁」を日本語の一般的な用法では「関係」とか「つながり」の意味で用いていることが多いのではないかと述べました。「関わりあい」です。

今月は「関係」と「つながり」という語の中味について少し詮索してみたいと思います。

NHKテレビで「ダーウィンが来た！生きもの新伝説」という番組が長期にわたって放映されてきました。

世界各国の様々な動物たちの生き様を詳しく映

じた実に興味深い内容で、私は時間がある限り毎回欠かさず観てきました。

動物たちの懸命に、ひたすらに生きようとする姿には感銘深いものがあります。

その生き方は大別すると二つになるのではないかと思いました。第一は食物を獲得すること、第二は子孫を残すことです。

この二つの「生存の基本的な方法」は、私たち人間と共にしているように思われます。海中生活をする魚類を見ると、まずプランクトンという水

面上や水中に浮遊している極小生物があり、これを白子と呼ばれるカタクチイワシやウナギ、アユなどの稚魚が食し、このカタクチイワシを鰯が食べて成長し、鰯を鰐や鮪や鯨が食して生きてゆくわけです。

陸上に生きる動物はどうでしょうか。陸上の動物は肉食と草食に分けられるようですが、肉食動物の代表はライオン（獅子）ではないでしょうか。テレビではライオンがシマウマを襲う場面を映していましたが、両者の知恵の出し合いは凄いと言ふほかないませんでした。

至ることもあるようです。

さて、動物の生き方は大別して食物の獲得と子孫を残すことの二つであるとしました。

「万物の靈長」とされる人間も決して例外ではありません。

幼かったころ、大人が子どもに向かって「そんなことではオマンマ（飯）食えないぞ」と諫めていたのを思い出します。また「早く嫁をもらわないと家が絶えるぞ」という忠告をよく耳にしました。

人間の「労働」と「生殖」の二つは他の諸動物と基本的に共通していると言えましょう。

とは言え人間と動物との根本的な差異は、人間がみだりに他者を殺める労働（戦争など）に強くブレーキを掛けたことです。「殺すなけれ」（不殺生）は仏教の戒律の第一に掲げられています。「縁」の宗教、「関係・つながり」の宗教＝仏教の役割はこの上なく重要なのです。

ぶつぞう探訪たんぼう

奈良県奈良市登大路町

法相宗大本山

興福寺

はな

阿修羅像

イラスト・文



〈顔 (a) 〉

三面六臂の阿修羅さま。顔は3つ、耳は4つあります。それぞれの顔で心の成長を描いてと言われており、右の顔は唇を噛み締めています。自分との葛藤にも見えます。

仏像界のスーパースターと言えば、興福寺の阿修羅さまではないでしょうか。二〇〇九年に東京国立博物館で開催された「国宝 阿修羅展」には、一日平均一万五九六〇人が会場を訪れ、世界の展覧会入場者数一位に輝きました。

華奢な体と豪いに満ちた表情が印象的な阿修羅さま。私が初めてお会いしたのはもう二十五年以上前のことで、当時は、仏法を守る八部衆の他のメンバーと一緒にガラスケースに祀られていました。「修羅場」にも例えられる神は、仏教に帰依するまでは帝釈天と戦い続け、怒りを露わにしている姿で描かれることが多いのですが、なぜか興福寺の阿修羅さまだけは違つたのです。ガラス越しに佇む阿修羅さ

悲しそうな左顔。それぞれの目には涙を浮かべているように見えます。みなさまにはどのような表情に見えますか？

まの姿は、まるで悩みを抱えた少年のように憮くて、寂しげ。仏像に対して「どうにかしてあげたい！」と思ったのは、初めてのことでした。

技術によつて纖細な感情の表現が可能となりました。研究の結果、阿修羅さまの原型はもつと厳しい顔をしていたことが判明しましたが、この像を発願した光明皇后が、亡くなつた息子を阿修羅さまに投影し、少年のような姿に生まれ変わらせたのです。人間が抱く心の葛藤を映し出す阿修羅さま。ありのままの姿で私たちの前に立ち続けます。

〈阿修羅さま〉
像高 153.4 センチ。体の中の土は、
かき出しているので体重は 15キロ
ほど。漆と麻布を 5枚、塗り重ねて
いるだけで、厚みは 1センチしかあ
りません。そのおかげで火災の度に
救い出すことができました。



※十月号 表紙裏「ぶつぞう探訪」頁

一行目「高野山金剛峰寺」は「高野山金剛峯」

寸」の誤りです。お詫びし、訂正いたします。（出版部）

読者のひろば

今月のパズル

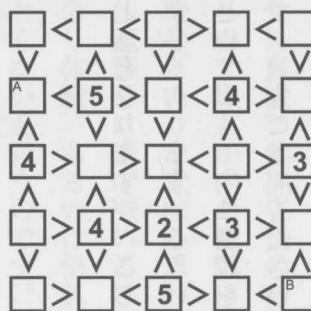
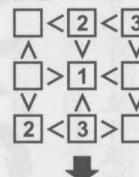
不等号ナンプレ

問題 ルールにしたがって、すべての空きマスに数字を埋めてください。

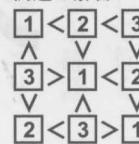
ルール

- (1) タテ列(5列)、ヨコ列(5列)のそれぞれの列の中に、1~5の数字が必ず一つずつ入ります。
- (2) マス目にある不等号は上下、左右マス、それぞれの数字の大小をあらわします(大きい数>小さい数)。

例題



例題の解答



A、Bのマスに入った数をたすといふ?

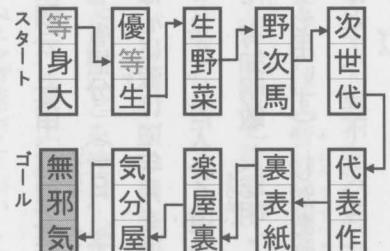
答え

$$A + B = \boxed{\quad}$$

※例題では、それぞれの列の中に、1~3の数字が必ず1つずつ入ります。

問題提供:スカイネットコーポレーション

●10月号 漢字リレーパズル解答



答え 無邪氣



正解者の中から抽選で5名さまにオリジナルメモ帳・子ども向け月刊誌『てらスクール』をプレゼント
平成30年11月20日〆切

送付先 〒105-8544 港区芝2-5-2 曹洞宗『禅の友』係
ハガキに住所・氏名・年齢と本誌への感想、パズルの答えを書いて、お送りください。

☆八月号の「大本山だより」に「四弘誓願文」が載っていました。女学校のころ、深い意味も知らず、毎日教室で歌つておきました。

この度、意味を拝見しありがとうございました。また懐かしく歌つてみました。いつも、いつまで大切にお唱えしたいと思います。

静岡県／大芝紀江／70歳

☆八月号の「大本山だより」に「四弘誓願文」が載っていました。女学校のころ、深い意味も知らず、毎日教室で歌つておきました。

になつて、世界が平和になるのではないかと思います。できることがありますから、自然を大切に日々感謝の気持ちで過ごしたいと思います。

長野県／小松末子／60代

☆八月号の表紙「ほおずきと花火」を見て、幼いころ、種を出して鳴らしたことや思い出しました。ほおずきをお墓に飾つてあるところもあり、お盆を身近に感じた朝でした。

愛知県／深谷ハネ子／92歳

☆毎月「禅僧ごはん」を読んでは切り抜いて、保存しています。

静岡県／大芝紀江／70歳

八月号の「雲の如く水の如し」で味来食堂の活動を知りました。このような活動が広がり、身近になれば心が豊か

☆十数年前に夫が病死し、今年三月には息子の病。生きることは心痛の連続です。

八月号の「禅のことば」悲感を読んで、「人は苦しん

に亡くなつた主人の供養をしに、お寺へ行きます。「禅の友」をいただいて、「禅のことば」を読むのを楽しみにしています。枕元に置いて何度も読んでいます。

三重県／森洋子／76歳

☆八月号の「仏さまと日本人」では、佐々木先生のお話に続きがあるように感じて気になっています。

岩手県／近藤節子／66歳

八月号の「禅のことば」悲感を読んで、「人は苦しん

●いつも
大分県／菊原紀代／65歳
10月23日～10月29日

●心の電話相談室
〔仏事・身の上相談など〕
11月の電話相談ご案内
Tel.(03)3454-5420
(火)～金曜 12時～14時
※不在の場合もございますので、悪しからず、奥深い言葉に感動しました。孫に読み聞かせながら、奥深い言葉が心に染みわたりました。

でやさしくなり、やさしくなつて感動し、感動して成長するのではなくかと思います。できることがありますから、自然を大切に日々感謝の気持ちで過ごしました。

●いづれ
山形県地蔵院／佐藤智光
10月30日～11月5日

●すなおなねがい
北海道真光寺
11月6日～11月12日

●かげぜん
青森県儒童寺
11月13日～11月19日

●かげぜん
東京都正覺寺
11月20日～11月26日

●ひとすじの光
山田悠光
11月27日～12月3日

●かげぜん
長野県太念寺
田中仁秀
11月27日～12月3日

は異なっていても、結果的にどれも賢いことを意味しています。

さて、質問者は古人の言葉から、「自分が能力が低く知恵に劣るからと言つて卑下してもいけないと言つているように思います」と自らの理解を述べています。『随聞記』でも既に似たような言葉は幾つかあって、例えば卷一の第十三話には「我が身、をろかなれば、鈍なれば、と卑下する事なかれ」とあり、また卷二の第十四話にも「人々皆、有_ニ仮性_一也。徒に卑下す事莫れ」とありますから、質問者の理解は正しいものと言えるでしょう。なお、本文の「劣智」を「劣器」としている異本もありますが、「劣智」で意味が通らないわけではないので、ここではそのまま解釈しました。

質問者の理解は正しいのですが、しかしそれ

道元さまは、質問者に対し「その通りです、仏道に知恵や才能は不要、賢さや聰明さは関係ありません」と言われ、多少の言葉の違いはあっても、まずは質問者の理解を全面的に肯定しています。その上で「だからといって、目が見えない人、耳が聞こえない人、あるいは愚か者のようになれと指導して、真実の仏道の学び方をねじ曲げてはいけない」と言われます。この部分、接続詞が足りないのか、語順が変なのか、少々読みにくい箇所ですが、このような内容と捉えておくことにしました。因みに『随聞記』の異本には「誠の学道をして錯つて、盲聾癡人の如くなれと勧むるは非なり」とあります。

ところで本文の「盲聾癡人のごとく」という表現は、当然ながら現代にあつては許されるも

のではありません。道元さまが伝え聞いた他者の言葉ということ、および当時の社会感覚が考慮されますが、そこはやはり十分に注意してください。そこにはやはり十分に注意しておかなくてはなりません。一心不乱になれ、といふことを誇張して喩えたのかも知れませんが、度を越した表現はかえって誤解を招く恐れが高いわけで、そういう意味では、今も昔も避けるべき表現ということになります。

ではどういう意味かと言えば、道元さまは「多くの知識や高い才能など全く不要なのだから、自分には能力や素質がないなどと自己嫌悪してはいけない。本当の仏道修行は、簡単なものなのです」と示されます。道元さまからすれば、知識学問や賢さなど関係なく、簡単に実現できる禅の日常生活そのものが、仏道を学ぶことであり、かつ、悟りの現れとなるのです。

でもやはり当事者としては拭いきれない不安があるのでしよう、「もしかして、このことについて過去の事例とか、心得ておくべきことがありますでしょうか?」という質問を道元さまに投げかけ、少しでも安心して仏道修行を続けたいという思いが見て取れます。次に、この問い合わせして道元さまのご返答です。

【卷三】十七（2）

示云、しかあり。不_レ須_ニ有_ニ知高才_一、不_レ頼_ニ靈利弁聰_一（有知・高才を須いず、靈利・弁聰に頼らず）。実の学道、あやまりて盲聾癡人のごとくになれとすすむ。全く多聞高才を不_レ用、故に、下々根劣器と、きらふべからず。実の学道は、やすかるべき也。

曹洞俳壇

選・坊城 俊樹

- ◆引く波を追ひかける子の晩夏かな 東京都 友野 瞳
- ◆光へと螺旋階段夏終る 長野県 森山 昌子
- ◆ただならぬ赤き火星や熱帶夜 千葉県 甲斐 勇
- ◆噴水の水交差する蒼き空 東京都 野村 信廣
- ◆鬼灯をならす少女の片えくぼ 埼玉県 日尾野安子
- ◆大屋根の片蔭多き城下町 埼玉県 橋本 永子
- ◆東西南北施餓鬼幡 兵庫県 内藤 昭子
- ◆本堂の東西南北施餓鬼幡 佐野 勇
- ◆打ち水や褪せし暖簾の奥の声 神奈川県 田崎よし子
- ◆道草のケンケンパーや青田風 和歌山県 田崎よし子
- ◆海女の墓波引き寄せて曼珠沙華 福島県 大槻 弘
- ◆孟蘭盆の時の「瓜の馬」。その馬上には亡くなつた母が乗つてゐる。そして、その馬を引いてゐるのは、おそらくその前に亡くなつた父なのだと思つた。どこまでも深い哀愁に彩られた句と思う。

- ◆山門に入るや自づと秋の声
北海道 大野 節子
- ◆母を乗せ父に引かるる瓜の馬
鳥取県 真山 博充
- ◆享年は二十一歳蟬時雨
福島県 俊樹
- ◆咲きさかるアガパンサスのはなびらは雨に濡れても消えない花火 福岡県 三吉 誠
- ◆亡き夫がタノムと書きし愛猫の今も夜更けに声引きて鳴く
島根県 横山 粂吾
- ◆初生りのニガウリ一個穫りしあとの空しさは何炎暑は続く
山口県 濱田 道子
- ◆雑草のはびこる更地に咲くカンナ遠き日の姑をふと思ひ出す
兵庫県 前田あつ子
- ◆早苗田に声を蒔くがにほとときす鳴きゐる梅雨のあめ上りきて
山形県 斎藤 弥生
- ◆さまざまに目を引くやうに服飾る店に放てば君は蝶蝶だ
島根県 門脇 順子
- ◆野良猫は餌くれる人定めおり我の足音で一斉に揃う
岐阜県 後藤 進

評 「秋の声」とは、秋になつて様々なものに秋の音色を感じること。ましてや山門に入ればそのすべての音に秋を感じざるを得ない。あたかも、作者に向かつて秋の声が待ち構えていたような気がするのである。

*作句小見
この句の二十一歳とは実は私の伯父にあたる人。むろん私と面識はないが、まだ若くして亡くなつた青年の顔が思われる。その刹那にその墓を取り巻く蟬たちの声が聞こえた。彼に対する鎮魂の歌なのだと思った。

曹洞歌壇

選・長澤 ちづ

◆獲物をば「授かり物」と呼び慣らす猟師ありけり平成の世に
島根県 横山 粀吾

評 鳥獣の命を奪つて生活の糧とする猟師の仕事。そこには必ずしも敬虔な思いが生じるのだろう。神からの授かり物として戴く命は必要最小限なはずである。恭しく戴くのである。いつの世でもかくありたいの思いが結句には籠められる。

◆孟蘭盆のちはは眠れる墓にきて日傘交わして妻と香焚く
福島県 大槻 弘

*選者小見

◆炎天を声たくましき老鶯に励まされつつ作務こそしするお盆の墓参は素材として珍しいものではないが、炎天下に、ご夫婦が互いに日傘を差しかけ合いながら、ご両親の墓前に香を手向けておられる点に沁々とした情趣がある。

◆知らぬ子におばあちゃんと呼ばれた日孫もないのにワクワクしたよ
秋田県 小松 紀子

◆セロファンに当たる光が風に搖れ白き炎をのぼらせている
秋田県 金子 幸子

*作歌小見



青森県 普門院住職
しらさわ せつしゅう
白澤 雪俊

焼きりんごの ブルーベリー添え

【食材・調味料】2人分

りんご…1個
ブルーベリージャム…市販適量
マーガリン…大さじ1
はちみつ…大さじ1

■補足

熱いままでも、冷蔵庫で冷やしてもOK。はちみつレモンを加えたり・香りのたつミントやシナモンなどを、アレンジしてみてはいかがでしょうか。電子レンジやトースターなど作り方は様々です。



写真：石岡英之

【作り方】

- (1) りんごは12等分に切り分けます。
- (2) 熱したフライパンにマーガリンを入れて、りんごを敷き詰めます。
- (3) りんごの表面を交互に返しながら弱火で焼きます。(サクサクとした食感を残す場合は3分程度)
- (4) 最後にはちみつを加えて全体になじませて火を消します。お好みでジャムを添えて出来上がりです。

梅花のこころ

梅花流詠讚歌

梅花流特派師範
茨城県 泉福寺

おじま 小嶋 弘道

供う花々映えわたり

真心明けき御灯明と

まいらす香につつまれて

御靈よ永久に安らわん

【追善供養御和讚】四番

私は檀信徒さまのご葬儀に、「追善供養御和讚」

をお唱えさせていただくようにつとめています。

この四番は、具体的な追善供養のためにお花、御灯明、お香をお供えする供養の姿が歌詞の内容となっています。

別れを惜しむご葬儀の会場には、供えられたお花が映えわたり、悲しみの中でも、旅立ちを美しく飾つて送りたいという、皆さまの思いが表れておりました。また、供えられた御灯明は、仏さまの教えで導いていただきたいという供養のまごころの表れです。

一心にお経をつとめ、ご参列の皆さまのご焼香を賜りますと、そのご焼香の香りの中に、お位牌、ご遺影がつつまれてまいります。

そのような中で「追善供養御和讚」をお唱えさせていただいく思いは、ただただ「御靈よ永久に安らわん」と祈り願うこころです。

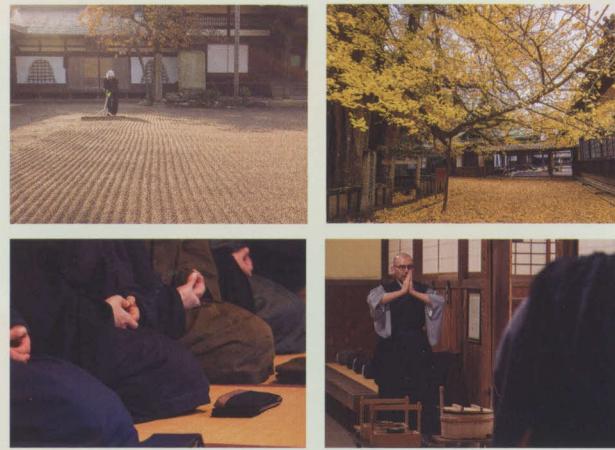
皆さまもどうぞ一緒にお唱えいたしましょう。

(お問い合わせ) 曹洞宗宗務庁 伝道部詠道課 03-3454-5416

仏国山 瑞應寺

ぶつこくさん ざいおうじ

愛媛県新居浜市



●アクセス
〒792-1108三五
愛媛県新居浜市山根町八一
・JR新居浜駅よりバスにて十分、
「瑞應寺前」下車
・新居浜ICより車で八分
●問い合わせ先
TEL ○八九七一四一六五六三



全国に三十カ所ちかく、雲水が修行するための専門僧堂をもつ曹洞宗であるが、瑞應寺専門僧堂は四国に唯一ある専門僧堂である。

道を志した修行僧たちが、どの僧堂で、どの師家につき修行をするのか、それは決して定められているわけではない。また、行雲流水のごとく、ひとところで修行を終える必要はなく、さらに道を求め別の修行道場の門を叩くものもある。曹洞宗の僧侶ならば、何といつても道元禪師や瑩山禪師のお膝元であるご本山にあこがれ、そのため永平寺、總持寺はとりわけ多くの修行僧をかかえるが、ここ瑞應寺はかねてより、とても厳しく、学べることも多種多様と評判で、地方僧堂で安居してみたい僧堂として同寺の名を上げるものも多い。そのため、他僧堂での修行を終え再安居しているもの、ここでの修行後、本山僧堂安居を予定しているものなど、探究の心あつき修行僧が多い僧堂だ。

専門僧堂として開創されたのは明治三十（一八九七）年のこと。以来、たくさんの修行僧が出入りしてきた。戦後の混乱のなか、国の復興とともに、この僧堂を再興しようと奮闘されたのはまだ三十過ぎのこと

若き櫛崎一光老師（一九一八—一九九六）であった。自分にはまだ僧堂を引っ張るだけの力量がないと、一光老師は崇敬していた永平寺の眼藏会（『正法眼藏』の講読会）講師もされたことがある橋本恵光老師（一八九〇—一九六五）を師家として迎え、その指示のもと身を尽くし、いまの瑞應寺専門僧堂の基礎を作り上げた。そして、厳格綿密な修行道場としての名は全国に広まつていった。

一光老師なき今も、その山風は受け継がれる。行持綿密、すべては風のごとく迅速に行われる。時間がない、人が足りない、しかし本来の行持の丁寧さは妥協しない。ゆえに修行僧たちは一瞬一瞬に集中し、颯爽と、優雅に振る舞う。そんな毎日がたゆまずに続けられている。これが瑞應寺の厳しさであり、魅力である。

本堂前の太くまつすぐ砂紋の描かれた白砂の庭が美しい。その左側には、樹齢八百年といわれる大銀杏が広く枝を広げている。この時期、大樹はかがやくようく黄金に燃え、修行僧は掃き作務に精を出す。

夜の僧堂は静かだ。秋の夜長、お袈裟を縫う針もすこぶるよく進む。

（文・釜田無閑）

大本山永平寺

雪廻い

霜月の夜長に坐禅をしておりますと、門前をそろそろと流れる川のせせらぎが、天地の恵みを知らせるとともに、体中に染み入つてまいります。

永平寺では、毎年十一月の終わりごろになりますと「雪廻い作務」を致します。丸太で組んだ骨組みに、竹簾をかけていくのです。掛け声を交わしながら皆で力を合わせて一心に作務をしておりますと、それぞれのお堂はアツという間にまるで蓑を被つたようになります。

昨年の冬は、屋根まで届く大雪で、窓ガラスや雨どいがあちこちで壊れてしましました。それでも、多くの皆さま方の篤いご支援をいただきまして、無事に冬の修行をつとめることができました。目に見えず、手に触れずとも、多くの皆さま方のお陰さまがあつてこそ、日々の生活修行が出来ているのだなあ、と深く心に留めたいものでございます。

さて、道元禅師さまがお示しになられました『正法眼藏』「坐禅儀」の中に、「冬暖夏涼をその術とせり」とあります。これは、冬にストーブを焚き、夏にエアコンを付けるのが坐禅になくてはならないというのではありません。もちろん、それも安らかではありますようが。

寒い時は着る、暑い時は脱ぐ、泣いたら涙を拭いて、調子が良くても慎みを忘れない。偏ることなく、いつもつとめて清々しく坐禅修行をするべし。ということだと心に留めているものであります。

私たちを支えてくださる、お一人お一人のまごころを、それぞれの雪廻いにして、坐禅修行したいと願うものであります。



ご本山だより



大本山總持寺

御移転記念日

十一月五日は、總持寺が今から一〇七年前の明治四十四（一九一二）年に石川県から現在地に移転し、遷祖式^{せんそしき}が盛大に挙行された日です。現在では、三日から五日までを御移転記念の期間とし、毎年様々な記念行持が行われています。

御移転記念日がお祝いの日であることはもちろんであります。が、同時に大事業を成し遂げた中興・石川禪師はじめ多くの先人の血のにじむようなご労苦に思いを馳せ、報恩感謝の念を表わすこととも忘れてはならないことです。

二日は「檀信徒の集い」が行われ、坐禅や写経・法話・朝課での総諷經^{そうぎょうきょう}（参加者ご先祖供養）に加え、本年は五十嵐典座による精進料理教室が開かれます。翌三日は「つるみ夢ひろばイン總持寺」が開催されます。四日は万灯供養や「門前シンポジウム」が行われ、地元の方々と将来の鶴見や總持寺についてディスカッションを行います。最終日の五日は報恩摂心を修行いたします。

十一月はこの他に冬安居「制中五則」や「太祖降誕会」（御開山・瑩山禪師の御生誕を祝す法要）が勤まりますが、これらが終わるといよいよ十二月。臘八摂心の時節となり、修行僧たちの顔つきも一段と引き締まっています。

大本山總持寺 / 045-581-6021

大本山永平寺 / 0776-63-3102



ヨコ 107 mm × タテ 177 mm

曹洞宗檀信徒手帳 2019

150 円（税込） 20 冊以上 1 割引



毎年ご好評をいただいで
おります手帳。
年間スケジュールと坐禅の
仕方や梅花流について
般若心経・修証義・普回向
などを収録。持ち運びに
便利な手帳です！

禅の風 47 号

1,080 円（税込）

特集 羅漢一弥勒下生のときまで
大笑する者、眉を寄せる者。坐禅
を組む者、腕を振り上げる者。
ひげ面、楽器を持つ者、男性も
女性もある。仏か人か……。
各地に奉安される様々な羅漢から
私たちとの関わりを考察する
(監修・駒澤大学教授 石井清純)

特集特別企画 海岸山 普門寺
東日本大震災の犠牲者と遺族のために
etc...



A4 判変形 オールカラー 56 頁

※別途、配送手数料等

ご注文は…

曹洞宗ブックセンター

フリーダイヤル

0120-498-971

おたより

読者の皆さま方の心あたたまる体験、
私の信仰、社会への提言、本誌への意見
や感想などを、三〇〇字以内にまと
めてお寄せください。

俳壇・歌壇

はがきを使用し、一通に三句（三首）以内
を、俳壇、歌壇別々にお送りください。

お願い

投稿は、住所（都道府県）、氏名、年齢を
お書きください。また、投稿はすべて
お返しいたしませんので、ご了承くだ
さい。掲載させていただいた方には記
念品をお送りいたします。

送付先

〒105-1854 港区芝二丁目一二

『禅の友』係

電話 03-3454-1541-7

編集後記



表紙「柿」
宮川翠

穀物や果物が熟し、
季節となりました。
木々が美しく色づく
鮮やかな秋の風景を
求め人々が足を運び
ます。描いた柿の葉
のほうは、緑から
黄・赤、様々な色の
変化が楽しいです。

境内は黄色い絨毯
が敷かれ、風が吹く
度にその厚みを増し
てきます。私は落
葉をせつせと竹簾で
集め、いくつもの小
山を築いていきます。
日本の秋を象徴する銀杏は、今から二億
年前に誕生しましたが、氷河期に種の大半
が絶滅し、私たちが目にする銀杏は、人の
手によって栽培されたもので、現存する野生の銀杏は絶滅危惧種に指定されています。
『生きている化石』とよばれ、秋の風景の
一部として生き続ける銀杏。そのいのちの
証を今日も私は黙々と集めています。（Y記）

『禅の友』
定期購読
受付中です！

定期購読
出版物の
ご注文は

- 曹洞宗ブックセンター（平日9時～17時）
- ☎ 0120-498-971 FAX. 03(3768)3561
- 曹洞宗出版物販売サイト
アドレス <http://shop.sotozen-net.or.jp>

禅の友
平成30年11月号
通巻第831号

平成30年11月1日
曹洞宗宗務総長
曹洞宗宗務庁
〒105-8544 東京都港区芝2-5-2
(03)3454-5411(代)
曹洞禪ネット
<http://www.sotozen-net.or.jp>



印刷所 三協美術印刷株式会社

禁無断転載 定価 60 円（税込）

© 2018 SOTOSHU